北方領土隣接地域における地域一体となった啓発促進策の検討に関する有識者会議（第５回）
議事録

１．日 時：令和８年２月 20 日（金）13:00～14:30
２．場 所：中央合同庁舎第８号館５階共用Ｃ会議室（オンライン開催併用）
３．出席者：
（構成員）
楓　千里　　國學院大學観光まちづくり学部教授
元・株式会社ＪＴＢパブリッシング取締役
佐々木　亨　　北海道大学名誉教授・北海道大学総合博物館資料部研究員
合同会社エ・バリュー共同代表
本間　由佳　　明星大学デザイン学部准教授
座長　矢ケ崎　紀子　東京女子大学現代教養学部経済経営学科教授
国土審議会北海道開発分科会特別委員
渡邉　英徳　　東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授
東京大学コミュニケーション戦略本部・副本部長
（オブザーバー）
北海道総務部北方領土対策本部
（北方領土対策課　山田課長、伊藤課長補佐、金野課長補佐）
北海道北方領土対策根室地域本部北方領土対策室（佐々木室長、菅沢主幹）
根室市（北方領土・国際交流部北方領土対策課　荒井課長）
別海町（総合政策部総合政策課　友貞主任）
中標津町（総務部政策推進課　谷口主幹、水戸部係長）
標津町（企画政策課　境課長）
羅臼町（企画財政課　遠嶋係長）
外務省欧州局ロシア課（有馬主査）
文部科学省初等中等教育局教育課程課（遠藤専門官）
国土交通省北海道局（三宅企画調整官、藤井開発専門官、藤澤事務官）
独立行政法人北方領土問題対策協会（梶原専門官、吉羽専門職、島田主事）
公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟（前川参事、勝部課長）
公益社団法人北方領土復帰期成同盟（河内事務局長、後藤事務局次長）
（内閣府）
三浦　健太郎　内閣府北方対策本部審議官
小林　明生　　内閣府北方対策本部参事官

４．議 題：

開会

１　事務局報告

先進事例調査報告　（補足）

実態把握結果報告　（補足）

２　中間取りまとめ（案）

閉会

５．配布資料：

議事次第

資料１　先進事例調査報告（補足）

資料２　実態把握結果報告（補足）

資料３　中間取りまとめ（案）

６．議事録：

○矢ケ崎座長　北方領土隣接地域における地域一体となった啓発促進策の検討に関する有識者会議第５回の会合をこれより開催いたします。構成員及びオブザーバーの皆様方におかれましては、大変お忙しい中、この会議に御出席いただきまして誠にありがとうございます。この有識者会議は昨年の４月から始まりまして、１年間にわたって開催してまいりましたが、本日の第５回が今年度の最終回となります。

本日の進め方ですけれども、まず、前回会議で議題となりました先進事例調査報告及び実態把握結果報告について、前回皆様から御指摘をいただいたことを踏まえて補足説明を事務局から行っていただきまして、その後質疑応答とさせていただきます。続いて中間取りまとめ案について、内閣府さんから御説明いただいた後、質疑応答でございます。今日で今年度最終回でございますので、議題が終了しましたら、各構成員、オブザーバーの皆様方から、１年間議論に参画されての感想や今後に期待することなどについて、それぞれ一言ずつコメントをいただきたく存じます。皆様からコメントいただいた後に、15 時をめどに閉会とさせていただきたいと存じます。

○矢ケ崎座長　それでは議題１、事務局報告から開始してまいります。まずは先進事例調査報告（補足）について事務局からの御説明をお願いいたします、

○事務局　事務局です。まずは先進事例調査について、前回の第４回会議での各施設のヒアリング結果について御報告をいたしまして、構成員の皆様から御指摘をいただきました。そうした御指摘を踏まえた補足資料を作成いたしましたので、御説明させていただきます。

資料１、１ページ目を御覧ください。前回の会議で、各施設のリニューアルにあたっての体制や工夫等についての御指摘を頂戴したことを受けまして、各施設の状況をまとめた資料でございます。

まず冒頭、東京都人権プラザについてです。同施設は、平成 14 年の設置後、平成 29 年の移転、令和２年のリニューアルを経て、令和５年に「セサミストリート」の特別展示が導入されました。この特別展示導入にあたっては、同プラザの専門員が中心となりまして、子どもの権利に関する専門家の監修の下で企画・制作が行われたとのことです。その際、子どもが関心を持てる展示デザイン及び内容とするために、子どもに人気の「セサミストリート」のキャラクターを活用することとしたとのことでございます。

続いて、長岡戦災資料館でございます。同館は、令和８年に移転リニューアルを予定しておりますが、その検討に当たっては、大学教員、歴史研究者、資料館運営ボランティアの代表等からなる委員会を設置しているとのことです。さらに空襲体験者を含む資料館の運営ボランティアの方々からも意見を聴取し、リニューアルの検討に役立てているとのことでした。さらに、今回のリニューアルにおいては、長岡空襲の爆撃中心地に近接する旧市立図書館跡地を移転先として選定し、「長岡空襲の史実に焦点を当てる」ことを展示内容の基本方針と設定をいたしましてリニューアルが進められております。長岡空襲を軸として移転先・展示内容が検討されている点が注目されます。

続いて、舞鶴引揚記念館です。こちらにつきましては昭和 63 年の開館後、平成 27 年にリニューアルが行われました。リニューアルにあたっては、当時、ユネスコ世界記憶遺産登録に向けた検討のために設置された有識者会議から意見聴取を行いつつ、当時の館長が中心的役割を担って取組が進められたとのことです。リニューアルの方向性としては、「開かれた施設」というコンセプトが設定されたとのことでした。

続いて埼玉ピースミュージアム、埼玉県平和資料館でございますが、平成 25 年のリニューアルに際しては、県職員を中心とした検討委員会が方向性を決定したとのことでした。あわせて、博物館勤務経験者、大学教員、地元の校長などの外部有識者からも広く意見を聞いたとのことです。行政主導の検討体制に外部の視点を加えた形でございます。

最後に野尻湖ナウマンゾウ博物館です。昭和 59 年の開館後、平成 30 年にリニューアルが実施されました。持続可能な博物館を実現すべく、「ユニバーサルデザイン」と「地域一体での博物館づくり」の二つをコンセプトとして設定いたしまして、学識経験者及び地域関係者で構成する構想策定委員会を中心に検討が進められたとのことです。

以上が各施設のリニューアルに関するヒアリング聴取結果の概要でございます。これらの事例に共通する点として、専門家や地域関係者を交えた検討体制の構築と、施設の目的や地域特性に応じた明確な方針設定が挙げられるかと考えております。事務局から資料１については以上です。

○矢ケ崎座長　ありがとうございました。続きまして実態把握結果報告（補足）について、御説明をお願いいたします、

○事務局　続いて、実態把握結果報告についてです。資料２を御覧ください。
　こちらも、第４回会議で調査結果について御報告をいたしまして、構成員の皆様から様々な御指摘をいただきました。今回はそれらの御指摘を踏まえた資料ということで御共有をさせていただきます。なお、御指摘を踏まえて修正追加したページには、ページの右上に赤字で「修正」「追記」と記載をしておりますので、御参考にしていただければと存じます。
　それではまず、１・２ページ目の「調査の概要」について御説明いたします。前回の会議において、調査のより具体的な方法、形態についての御指摘を頂戴したことを踏まえまして、今回情報を充実させております。まず１ページ目には、調査の実施期間、対象者等について追記をいたしました。
　続いて２ページ目には、調査の実施方法について、各施設の出口にスタッフを２名程度配置し、ブースを設置した旨、展示観覧後の来館者に声をかけ、オンライン回答または紙での回答を依頼した旨、回答者全員に「エリカちゃん」の塗り絵、間違い探し、ブックカバーを、さらにＳＮＳをフォローしていただくことで、オリジナルのステッカーをインセンティブとして提供した旨を記載いたしました。
　続いて３ページ目を御覧ください。ここからは調査の結果について御報告いたします。前回の会議において、全体として道内・道外といった属性をリンク付けた分析について御指摘をいただきましたので、今回各項目において道内・道外別の傾向や分析に関する資料を追加させていただいております。施設ごとの「施設を知った経緯」についてです。3ページ目には、前回お諮りしたものから変更はしていないのですが、全体として「近隣の集客地等を契機に啓発施設を知る・訪問する」集客構造が見られたところが特徴です。
　続いて４ページ目に移ってまいります。こちらは新たに追加をした資料でございます。「施設を知った経緯」の道内・道外別の傾向等についてですが、北方館、羅臼国後展望塔、北方領土館では、道内客と比して道外客は「近くを通りかかった」の比率が低く、観光パンフレットや旅行代理店からの紹介、ウェブサイト等にも回答が分布しており、計画的な来訪の傾向が一定程度みられます。他方、別海北方展望塔は道内・道外ともに「近くを通りかかった」が突出しているという、施設ごとの傾向の違いが見られました。
　次に資料５ページ目に移ります。こちらは施設ごとの「来館目的」についてです。５ページ目は、前回お諮りした資料から変更はございませんが、各施設の共通的な傾向として、「展望室から北方領土を視察するため」と「展示を見るため」の二つが、来館者の２大ニーズでございました。
　続いて６ページ目でございます。こちらも追加をした資料でございます、「来館目的」の道内・道外別の傾向等についてですが、まず、北方館・羅臼国後展望塔については、道外客は、道内客と比べて「展望室から北方領土を視察するため」の訪問が多くなっています。その分、道内客の方は「展示を見るため」「休憩・トイレ利用のため」にも回答が分散しております。次に北方領土館については、道内客が「展望室から北方領土を視察するため」に集中する一方、道外客は「展示を見るため」の訪問も見られるという傾向でございます。これらと異なり、別海北方展望塔においては、道内道外で顕著な差は見られませんでした。
　次に７ページ目、施設ごとの「印象に残った展示」についてです。７ページ目は前回からの変更はございませんが、各施設に共通して各施設の展示の大半を占めるパネル展示に加え、「北方領土の眺望」や「ジオラマ」のように直観的理解につながる展示が、多くの来館者の印象に残りやすいという結果でございました。
　続いて８ページ目、「印象に残った展示」の道内・道外別の傾向でございます。道外客は道内客に比して、「北方領土の眺望」や「北方領土のパネル展示」だけでなく、「昭和 20 年当時の暮らし」や「終戦当時の国後全島鳥瞰図」へも関心が分布していることがわかります。また先ほど述べました通り、道外客には一定程度計画的来訪の傾向がみられますが、そういった、計画的に訪問する方々は、「学ぶ」ことへの志向が高く、それによってパネル展示や眺望以外の展示物も含めて総合的に関心を示す傾向があるものと考えられます。
　次に、９ページ目、10 ページ目、施設ごとの「施設訪問前後の訪問場所」についてです。９ページ及び次の 10 ページは、前回お諮りした資料から変更はございませんが、全体として施設ごとに来訪者の周遊傾向に差異があり、例えば納沙布岬に近接する北方館は様々なパターンの旅程で訪問されていたことがわかります。

続いて 11 ページ目でございます。こちらは、施設訪問前後の訪問場所に関する道内・道外別の傾向でございます。次の 12 ページ目には詳細な表をつけておりますが、これらを簡略化し、各施設ごとに道内・道外別のトップ３の訪問場所をつけましたものが 11 ページ目になります。道内客の方が来訪する傾向にある場所として、北方館・別海北方展望塔・羅臼国後展望塔では「道の駅」のほか、自然学習ができる野付半島ネイチャーセンターや知床羅臼ビジターセンターが上位を占めております。他方、北方領土館では、野付半島ネイチャーセンターの他、町内の標津サーモン科学館、しべつ海の公園、また、中標津町の開陽台が挙がっています。次に、道外客の方が来訪する傾向にある場所として、各施設共通で「道の駅」「自然学習施設」の人気が高いです。その他、中標津空港に程近い道立ゆめの森公園も北方館・北方領土館の上位の訪問先でございました。

最後に 13 ページを御覧ください。円グラフがついているものです。こちらは施設に対する自由意見・定性回答の結果でございます。こちらも前回の会議において、定性回答、特に「耳の痛い」ような意見に関して御指摘がございましたため、資料を追加いたしました。まず、全体としては、「北方領土返還等に対する願い」と「展示・施設運営等への肯定的意見」がほぼ同数で最も多く、「展示・施設運営等への改善意見」、「学んだ内容についてのコメント」が続いております。そして、「耳の痛い」ような意見、すなわち、改善意見の具体例もまとめておりますが、例えば、ロシア側の主張を説明する展示があればなお良いとの意見が別海北方展望塔、北方館、北方領土館において寄せられているほか、歴史の流れや経緯が一目でわかるものがあると良いとの意見が北方領土館及び羅臼国後展望塔において出ております。また、展示物や施設の老朽化・劣化に関する意見のほか、お土産・グッズの販売やわかりやすい看板の設置に関する要望等もございました。

実態把握結果補足について事務局からは以上となります。

○矢ケ崎座長　興味深い追加報告がなされたと思います。今ほど御説明がありました資料１と２について、質疑をさせていただければと思います。御質問、御意見がある方は、どなたからでも結構でございますので、御発言をお願いします。いかがでございましょうか。

○渡邉構成員　質問ではなく意見です。長岡戦災資料館は、僕はよく行くのですが、現立地も今度移転予定の場所も、長岡は割と中心部にいろんな文化施設が集まっていて、商店街もすぐ近くにあるので、立地でかなり得をしています。長岡は御存知のように大きな地震もあった場所ですから、震災メモリアル施設とか山本五十六記念館とかが徒歩で巡れる圏内にあります。また、途中でご飯を食べることもしやすい立地です。

今回、実態把握結果で、面白いなと思ったのが、「施設を知った経緯」についての質問への回答が「近くを通りかかった」がトップという結果になっていることです。これは長岡戦災資料館のような事例を参考にできると思っていて、北方領土とは直接関係ないけれど、近くにある人が立ち寄れる場所と連携したツアーを組むと、人を呼び込みやすいのではないかと思います。むしろこれを目当てに来ている人よりも、近くを通りかかったとかトイレに行きたかったため来館したという人が多いというのは、逆手にとると、うまく動線を作れば多くの人を連れてくることができるなと思った次第です。

○矢ケ崎座長　ありがとうございました、続いて、楓先生お願いします。

○楓構成員　実態把握結果報告６ページ、施設ごとの「来館目的」（２/２)資料を見ますと、羅臼国後展望塔は、道内の方も道外の方も「展示を見るため」という回答が、他の施設に比べると数字が大きくなっています。これは、広報をうまくされていて、事前に興味深い良い展示があるという情報を来館者がキャッチできるようになっているのか、または、同施設の皆さま方が何か工夫をされているのかをお伺いできればと思います。これはとてもいい傾向だと思います。何か取り組んでらっしゃるのであれば、他の地域もそれを共有していただくといいのではないかなという印象を持ちました。以上でございます。

○矢ケ崎座長　御指摘のとおり、羅臼国後展望塔については、施設ごとの「来館目的」についての質問に対し、道内外とも「展示をみるため」という回答の割合が高くなっていますけれども、何かコメントされますか。

○事務局　事務局からは現時点で明確な理由等は存じておりませんので、回答は控えさせていただきます。

○小林参事官　内閣府の小林ですが、羅臼町の方も今お聞きになっている中で言い難いことですが、羅臼国後展望塔において、展示内容について宣伝をすごくやっておられるという印象はないんですけども、ただ、この数字が出ている理由は、御指摘のとおり何らか確認した方がいいかなというふうに感想として思いました。以上でございます。

○矢ケ崎座長　特にこれから充実させていくことを考えるフェーズにおいては、こういう小さな芽みたいなところをしっかり確認をしておきたいかなと思います。他にいかがでしょうか。佐々木先生お願いします。

○佐々木構成員　今楓先生が言及された同じページの、実態把握結果報告６ページ、施設ごとの「来館目的」（２/２）のところに、２ページ目のところで北方領土館以外は、４日間の調査と記載がありますが、北方館は他施設と比べて、道内・道外もＮの数（回答数）が多いですが、この辺は何か事情があったのでしょうか。私も、現場に立ってミュージアムの来館者からアンケートを取ることが多いので、すごく御苦労したことはよくわかるので、それには敬意を表したいと思うのですが、この偏りがどういうふうに出たか、もしわかればと思いました。

○事務局　この点について何か事務局側で操作をしているということはなく、他施設と同様に皆様にお声掛けをしております、断られた率が特段他の施設が低いというわけでもないので、単純に来館者の数に影響されるものと御認識いただければと思います。

○佐々木構成員　来館者調査を実施していると断られると落ち込みますよね。でも、大変なことだけど、こういうふうにデータを取るのはいいことだと思います。お疲れ様でした。

○矢ケ崎座長　ありがとうございました。エリカちゃんのギフトも良かったかもしれないですね。あれ可愛いですよね。本間先生いかがですか、

○本間構成員　実態把握調査の補足をいただいてありがとうございます。この時に、選択肢に道内・道外とありますが、道内だとどの辺のエリアの方々が来ているかというのは、集計していますか。近くの人たちが立ち寄る場所みたいになっているのか、北海道の中からいろんなところから来て皆さん興味があるのかというのはちょっと知りたいなと思います。

○事務局　ありがとうございます。選択肢としては、一市四町なのか、それ以外なのかというところで集計をしておりますので、会議終了後、その点であればお渡しができるかと思います、

○本間構成員　アンケートしながら印象だとどっちが多いみたいなのってわかりますでしょうか。

○事務局　基本的に一市四町の方もなかなか半数弱程度はいたような印象は持っております、

○本間構成員　加えて、先進事例調査の方もありがとうございます。さらに詳しくいろいろと情報をいただきましたが、リニューアルをした時の体制とか規模感等を、もう少し知りたいなと思っており、やはり予算規模とか体制をどれくらい組めるのかによってできることって限られると思うので、そのあたりとかリニューアルした時の背景みたいなものも、少し追加で教えていただけばと思います。

○事務局　予算については、お伺いできた範囲でまたあるものがあれば、お示しできればと思います。

○矢ケ崎座長　なかなか聞くのも難しいかと思いますが、行政の予算として計上されているようなものとか、堀を埋めるような情報があると類推できますね。他大丈夫でしょうか。渡邉先生どうぞ、

○渡邉構成員　舞鶴引揚記念館の、次世代体験型施設の「次世代」というのは、どの点に現れているのでしょうか。

○事務局　回答させていただきます。私も実際に訪問はしたんですけれども、リニューアル時に館内を全体として明るくしたという変化を起こされたそうで、そうするとカップルが多くなって、これまではなかった、手をつないでいるカップルが館内にいるみたいな状況が見られるようになったとか、そういった点で、かつ、学生語り部もそうですよね。そういったところを通して次世代というところが現れているという形です。

○渡邉構成員　なるほど、次世代というのは、次の世代向けにという意味合いも含んでいるんでしょうかね。

○事務局　おっしゃるとおりです

○渡邉構成員　ありがとうございます、

○矢ケ崎座長　照明とか明るさも結構大きな要素だったのでしょうか。楓先生どうぞ。

○楓構成員　施設ごとの「施設訪問前後の訪問場所」（３/４）を見ますと、多くの方が道の駅に訪問されており、このエリアの道の駅の重要性が、明らかになったと思っています。実際に隣接地域の道の駅に行くと、デジタル版の北方領土隣接地域『到達証明書』取得を促す取組がなされているのですが、別海北方展望塔の道の駅を一例として、より道の駅を拠点として、北方領土問題の理解をしていただく工夫ができるのではないかと思います。道の駅と一緒になって進めていくのが重要との印象を持ちました。以上でございます。

○矢ケ崎座長　今の御指摘は皆さんうなずくところかと思いますね。今以上に連携を強めていかれるのがいいかなと思います。ありがとうございます。
　良い補足をしていただきましてありがとうございました。特に実態把握のこの調査ですね、この規模で前回一斉に同じ項目で聞くことは今回初めてかと思います。こういった調査は今回だけではなくて、これからも継続して定期的に行って、成果を把握していくということが大事になってくるのかなというふうに思います。今この段階では、先ほど渡邉先生からも御指摘ありましたように、この啓発施設そのものが目的地ではないという状況です。この状況は、観光的に悪いことではなく、観光の魅力はいくつかに分類されており、目的地になるぐらい大きな魅力もあれば、大きな魅力と大きな魅力に動く間に、良い意味でついでに行く旅程を埋めるタイプの魅力、中ぐらいの魅力、小さな魅力と称せる、そういう魅力にこの啓発施設は今位置づいていると考えています。実はもう一つあって、行ってみて初めて発見できる魅力、これが感動と驚きを呼ぶのでリピーターを作りやすいとされている魅力です。この実態把握調査を経年やって、数年後に、目的地となる魅力として認識してくださる方の数が増えていくとすごくいいなと思いました。今は旅程を埋める、ついでに行く、どこかの経過点として寄ってみても良いという魅力に分類されていますので、そういう魅力であれば、道の駅とか目的地になっている魅力とどう組むのかというところが、今の段階の戦略としてはとても重要になってくる。そのうち、目的地化ということになっていくと情報発信のやり方も変わってくると思いますので、成果を測っていくためにもこうした調査は大事だなと思いました。良い調査をやっていただいてありがとうございました。
　それではですね、今御指摘のあったことについて反映できるものは、反映していただければと思います。

○矢ケ崎座長　続きまして、議題２、中間取りまとめ案に移りますので、まず内閣府さんからの御説明をお願いいたします。

○小林参事官　内閣府の小林でございます。中間取りまとめ案たたき台ということで、資料３でお配りしているものを御覧いただければと思います。前回 11 月の第４回会議の時に素案ということで御意見を賜っており、反映した箇所を赤字で表示しているものでございます。まず１～５ページは特段変更はございません。６ページ「３　対応策の検討の方向性（１）施設自体の老朽化への対応」につ

いて、ここは調査研究は２年間で行うということで、まさに今１年目のまとめの段階ですけれども、建物の老朽化の対応というのは、準備と着手に時間がかかるので、一部先行的・並行的に進める必要がありますという御指摘をいただいているところでございます。こちらの方はそういった御指摘にも対応して、予算要求をし、今の国会にまさにかかろうとしている令和８年度の予算案に、調査研究の２年目の予算と標津町の北方領土館の基本構想・基本計画の予算を、両方予算案に入れていますので、予算案というところまでいったということを示すために、赤字で「案」と書いているところでございます。そこから続いていきまして、北方領土館は建て替えの話なのですが、その他の啓発施設については状況を踏まえて、補修などの検討対応が必要ということが７ページにかけて書いてありますが、こちらの方も、根室の北方館と羅臼国後展望塔につきましては、令和７年度の補正予算、昨年12 月に成立したものに、補正予算を入れておりますので、その記載を追加しております。また、なお書きのところは前回まさしく御指摘をいただきました、施設の建て替えや補修の際にはバリアフリーなどをしっかり意識することが必要だという御意見をいただいておりますので、追記しております。続いて７ページは展示の在り方を論じているところでございますが、８ページ「（２）展示の在り方」に行きまして、展示のリニューアルの箇所で、今まさにインバウンドを理解する状況であることを踏まえる必要がありますので、外国からの来館者を意識し、多言語対応についても検討が必要だという御指摘をいただきましたので追記しております。そのページの下の方で企画展とかワークショップが、必要だというところの箇所でございますけれども、ワークショップについても、地元の方にとっても、良い影響があるということを意識しつつ、例えば自らコンテンツを制作していくというワークショップということに取り組んだ方がいいということを御指摘いただいておりますので、記載したところでございます。続いて、10 ページ「（３）その他の取組等」というところでございますけれども、こちらは隣接地域により多くの人が来ていただくということで、先ほどの実態把握のところでも少し議論をいただいたように、人の流れとか、そういった他のものとうまくどう連携するかという箇所でございます。こちらの方は１年目はあまり議論ができたところではございませんので、２年目にさらに議論していくというふうに考えておりますが、11 月のときに、例えばスタンプラリーの企画の際に参画するとかですね。あと観光の商流とどう連携するのかっていうこと、あとは修学旅行に係る新たな需要というのが生じる可能性もあると、特定の地域にあまりにも観光客の方が集まっていることによって他の地域に行こうという流れも今後生じるんじゃないかというところもとらまえる必要という御指摘をいただいたので、追記しているところでございます。変えた場所は以上でございますので、また御意見をいただきつつ、それも最終的には反映させて、今年の中間取りまとめという形にできればと思っております。以上でございます。

○矢ケ崎座長　ありがとうございました、
　今ほど御説明のありました資料３について、御質問あるいは御意見を頂戴していきたいと思います。渡邉先生お願いします。

○渡邉構成員　10 ページ「（３）その他の取組等」がまさにさっき話題になったところで、移動経路について、偶然出会って入って来られる方っていう要素を入れるといいんじゃないかなと思いました。それが今回の実態把握結果報告でまさに見えてきたところなので、そこは盲点というか、啓発施設だけをどうしても考えてしまうんですけれど、もっぱら車で移動する場所なので、途中で出会う方が多いということをもう少し明確に書いてもいいかなと思いました。

○矢ケ崎座長　ありがとうございます。今の御意見は、近くまで来て偶然入ってくる人に対しての、対応について、先ほど御説明あった実態把握調査結果報告を踏まえて、記述を充実させてはという御指摘でございました。ありがとうございます。では、他にいかがでございますか。楓先生。

○楓構成員　第３回会議で、国土交通省北海道運輸局清野さんからお話がありました、オホーツクの全体構想について関心があります。今国が進めているレガシー形成事業は、地域の様々なレガシー的なコンテンツをより際立たせて、そこに国内外のお客様をお呼びしましょうという政策と理解しています。北海道では具体的にはオホーツク遺跡街道構想が進んでいますが、このオホーツクというと、どうしても知床から北部のエリアと限定されている感があります。オホーツクの名の付くホームページや計画を見ても、ほとんどが網走から斜里の間を中心に様々なことが進められていて、事業もかなり活発に行われています。そのオホーツク文化の括りで、知床から南、まさに根室までをそのオホーツク文化圏と言って良いものなのかどうかというのは、先生たちの御意見があるかと思いますが、海

はつながっていますので、オホーツクという誰も知っている言葉と一体となって文化的にも、観光的にも推進し、両面で進めていくことができれば、オホーツク遺跡街道構想の中には実は北方領土隣接地域や北方領土も入っているのだということを、うまく知っていただく工夫ができるのではないかなという印象を持っています。この構想ではオホーツク・テロワールという言葉を使っていますね。オホーツク・テロワールであれば、根室からまさに北方領土の島々もテロワールだと思いますので、レガシー形成事業は国の施策ですので、上手くリンクするとよいかと思います。以上でございます。

○矢ケ崎座長　オホーツク・テロワールはおしゃれで旅行者に刺さる言葉でございますね。何かコメントございますか。

○小林参事官　ありがとうございます。やはり十分に意識して、横目で見ながら、どう連携していくのかと受け止めなければなというふうに思いました。直接そこに今入り込むというような認識は、向こう側もあとこちらの方も持っていないではないのではと思いますが、おっしゃるようにもともとこの有識者会議でもオホーツク文化ということを十分意識する必要があるという御意見をいただいているので、その辺を意識しつつ上手く繋がっていけるように、こちらの取組を考えていくというような文脈で記載する等で、受け止めさせていただければと思います。

○矢ケ崎座長　ありがとうございます。楓先生御指摘の件、11 ページ「（参考）施設や取組の例」に連携強化先の参考のような形で書いてありますが、上から２つ目に記載がありますね。強弱をつけて、表現できるかもしれませんので、そこも検討課題かなというふうに思います。ありがとうございます。いかがですか。本間先生どうぞ。

○本間構成員　７ページ目「３対応策の検討の方向性（１）施設自体の老朽化への対応」のところで、「施設の建替えや補修などの際には、バリアフリーについても意識することが必要である。」と記載がありますが、バリアフリーという言葉を使うべきかどうかすごく悩ましいなと思います。あまりデザインの関係で、最近はバリアフリーという言葉より、どちらかというとユニバーサルデザイン等の言葉を使用することがあるため、もう少し表現は変えてもいいのかなと思います。行政の文書等で、どのような言葉を常用しているかわからないのですけれども、バリアを取るという意味合いだけではなくて、多くの人に使いやすいという意味合いの言葉に変えるということは、我々が目指すところと言葉が合ってくるのかなと思いました。気になった点でございます。

○小林参事官　二つ含むということかもしれませんので、どちらかを書くというよりは、両方書くという方法もあると思っております。どちらを先に書くかは検討した上で、書き方は工夫し、言葉は両方出てくるような形で書きたいと思います。

○矢ケ崎座長　お願いいたします。佐々木先生お願いします。

○佐々木構成員　先ほどの渡邉委員のおっしゃったことの関連ですが、７ページ「３対応策の検討の方向性（２）展示等の在り方」のところで、今回の実態把握調査みたいなことを、こういう規模で初めてやってみて、一体来館者が何を求めていそうなのかとか、実態から展示を見るということはすごく大事だと思いました。また、７ページ～10 ページ「（３）その他の取組等」の前までのところは、設置者側、もしくは地元としてこういうふうにやっていきたいという、そういう設置者側の意思というのは一番大事だと思いました。かたや来る人が一体何を求めているかという情報も、同じようにとは言わないまでも、併せて見ていくということが大事なので、どこかで触れたらいいかなと思いました。

　また、昨日一昨日と、文化庁のミュージアム・パブリックリレーションズ研修の講師として私は、博物館の来館者が展示に求めているものと、博物館が展示で提供したいと思っているものの間に、隔たりがあるのではないかということを、事例を通してご紹介しました。社会教育的な学びというのは絶対外せない要素だとは思いますが、来館者が求めているものの実態について知っておくことは大事だと思いました。

○矢ケ崎座長　ありがとうございます。渡邉先生からも御指摘ありましたが、この実態把握結果報告（補足）って結構使えると思います、この中身をもう少し中間取りまとめ案に入れられるのではない

かと、今の調査では実態はこんな感じである等ですね。北方領土そのものを見に来ていることもありますし、企画展示については、道外から計画的に来る人には、学びの対象として見られているらしいが、これも非常に大事だとか、近隣の施設との連携も大事だとか、中間取りまとめ案に書いてくださったことの補強材料として、もう少し記述を入れてもわかりやすいですよね。そういう御指摘かと思いました。佐々木先生、ちなみに文化庁さんの御講演の中で、学び以外の何を目的に来ているという話になったでしょうか。

○佐々木構成員　2022 年にある美術館で 2000 サンプルほどのアンケートを取った中では１番は感動したいとか感激したい、例えば、美術館であればその作品を見て感激したい、感動したいという目的。２番目が現実から逃避したい。３番目で、作家さんの過去と当時の時代背景を知り、作家のその当時の思いを想像して、自分の今までの経験と重なり合わせてナラティブを作りたい、自分の中で新しい物語を作りたいという回答をした人が３割ぐらいいました。それと同じぐらいの割合で、学びが目的と回答した人が続いているっていう結果になりました。１、２番目はよく博物館の世界では今まで常識的に言われていたことなのですが、３番目のそういうナラティブという要素を目的とする人が、少なくなかったっていうのが、衝撃的な事実でした。

○矢ケ崎座長　実態把握結果でも、当時の写真・資料を見てみたいと回答がありましたよね。これは何なのだろうと思っていたのですけど、今先生に教えていただいたように、もしかしたらナラティブだったり、ストーリーを組み替えるということかなと。

○佐々木構成員　アンケート調査のあとでヒアリング調査をやりながらわかったんですけど、どん底から這い上がって作家として大成したある絵本作家さんの作品を見ていて、自分は大学まで卒業したのに、今の自分のこの人生、子育てが終わってこの空虚な感じは何なのだろうって、自分は先生の生き方を学びたいなと思ったって、インタビューで泣きながら語ってくれる人がいて、本当に自分の人生と作家さんの過去の生い立ちをクロスさせるような形が出ていた。だから、そういう方々にとってみれば、作品はほとんど風景なんですよね。一つ一つの作品を見たいんではなくて、その作家さんの世界観の中に自分の足を踏み入れて、自分の過去の経験や体験とクロスしていくっていうことです。フォーカスグループインタビューをやっていると、意識の高い人たちが回答してくれているので、実はナラティブを作ることが一番トップだったんです。でも、そんなこと絶対ないだろうと思って 2000 サンプル取ったら、トップにはならないけれど、３割ぐらいで３位に入ってきたっていうのが、大きな発見でした。

○矢ケ崎座長　勉強になりました。ありがとうございます。元島民の方からお話を聞くとか、語り部の方の話を聞くっていうのは、そういう自分の人生との対比がダイレクトにできる、ナラティブを作りやすい要素ということになるんでしょうか。

○佐々木構成員　そう思います。

○矢ケ崎座長　今佐々木先生に教えていただいたことを踏まえて、展示の仕方だとか方法だとかということに狙いとか効果とかそういうものがより明確にあるいは広がったりということが可能になりますね。そういう考え方をしだすと、どういう展示をどういうふうにしようかなってすごく楽しくみんなで考えられるような気もいたします。他にいかがですか。渡邉先生。

○渡邉構成員　舞鶴引揚記念館のカップルが来るようになったという話が如実で、きっと学びに来ているわけじゃないんですよね。デートに来ているんですけど。今の７ページと８ページの赤字のところが、どちらかというと、学習施設としての記述になっているので、それこそ観光施設として魅力的にするとか、訪れた人が居心地が良くて、また来てしまうとかそういう切り口も必要であるということが見えてくるような気がしますね。何度かデートで行っているうちに段々と詳しくなると良いと思いますが、最初に面白そうとか素敵って思ってもらわないと立ち寄ってくれないはずですよね。そういう切り口がおそらく必要なんだろうなと思いました。

○矢ケ崎座長　なるほど、快適なので何度も来て、来るとなかなかいい施設なので、何度か通っているうちに知らずと詳しくなるということですかね。多くの方に知ってもらうというところからする

と、そういう導入の仕方もすごく大事ですよね。啓発施設の中でも、デートスポットとして有名になるところが出てくるといいかもしれませんね。他にいかがでしょうか。楓先生どうぞ。

○楓構成員　８ページ「３ 対応策の検討の方向性（２）展示等の在り方」のところでワークショップに地元の方や元島民や地元の子どもたちと共同で取り組むことが良いのではないかということを書いてくださっていて、まさにその通りだと思います。舞鶴引揚記念館は、学校連携として、探求学習の発表や学生語り部活動とか、かなりここに力を入れている印象を前回の発表の時にも伺いました。地元の住民の方はもちろんですけれども、地元の高校との連携や、第３回会議でお話ししてくださった半田つくしさんのように進学した札幌の大学との連携も進めていくと良いと考えます。10 ページ「３ 対応策の検討の方向性（３）その他の取組等」に大学等のゼミとの交流という記載もありますが、もう少し戦略的に小学校、中学校、高校そして道内の大学とどう連携していくかを、組み立てられると、実際に札幌に進学した皆さんも、具体的な繋がりの中でお友達を連れてこられるということも含めて、地元との交流に積極的に関わってくれるようになるのではないかとの印象を持ちました。
　もう一つは、さきほど道の駅と申し上げましたが、道内には 128 の道の駅があります。128 の駅が全て連携しているかというと微妙ですが、組織的には連絡会があります。北海道の場合はそこをまた細分化されているところもありますが、情報は 128 の駅には通るようにはなっていますので、隣接地域の道の駅だけではなく、北海道観光でお客様が立ち寄る道の駅のネットワークを、うまく使っていくことも考えてみて良いかと思います。以上でございます。

○矢ケ崎座長　ありがとうございます。楓先生は道の駅にとてもお詳しいので、いろいろお知恵をいただけるとありがたいですけど、128 もあるんですね、素晴らしい。他はいかがでしょうか。大体よろしいでしょうかね。
　今日も大変有意義な御指摘をいくつもいただきましたので、少しまだ追記修正が必要かなというふうに思います。今回で今年度最後でございますので、修正につきましては、座長、矢ケ崎に御一任をいただいてよろしゅうございますでしょうか。事務局の皆様方と御相談の上で修正を行いましてさらに必要な参考資料等があれば添付するようにもいたしますので、事務局の皆さんと一緒に完成版に仕上げていかせていただきたいと思いますので、お任せいただければと存じますがよろしいでしょうか。

（首肯する構成員あり）

○矢ケ崎座長　ではそのような対応とさせていただきますので、事務局の皆様よろしくお願いいたします。
　本日の議題は以上でございますので、冒頭にお話を申し上げましたように、今年度の最後の開催ですので、各構成員の先生方及びオブザーバーの皆様方から、１年間振り返りましてのご感想ですとか、今後に期待されることですとか、一言ずつコメントを頂戴できればと存じます。私から、順繰り指名させていただきます。大変申し訳ないのですけれども簡潔に１人１、２分程度でお願いしたいと存じます。ではまず構成員の先生方から始めます。楓先生トップバッターでお願いします。

○楓構成員　ありがとうございます。まずは貴重な勉強の機会をいただきましたことに、深く御礼申し上げます。北方領土や隣接地域について、今回訪問し、また元島民や後継者の方から直接お話を伺い、今まで全く知識不足であったと改めて痛感いたしました。特に元島民の方も高齢になられており、その方たちのお話をしっかりと残していかないといけないと考えております。昨今のデジタルツールを駆使して皆さん方の多くの思いと声を残していければと思っております。
　２点目は、道東観光の、厳しい状況を目の当たりにしショックを受けました。私は旅行雑誌を長く作っておりまして、北海道特集には必ず納沙布岬は取り上げており、いわば北海道観光「聖地」でありました。昭和から平成のバブルの頃までは、エスコート型と言われている大型バスで 5 泊 6 日で道内を回るようなお客様が、根室、納沙布岬にも必ず立ち寄られていたかと思います。団体ツアーから個人旅行へと時代が変わった時に、道東の観光の受け入れ体制も旅行会社も少し止まってしまっているなという印象を強く受けました。すばらしい魅力がある地域ですので、来年度は道東の観光の回復ということも考えていきたいと思っております。以上でございます。

○矢ケ崎座長　続きまして、佐々木先生お願いします。

○佐々木構成員　佐々木です。私北海道生まれで、かつて網走にも住んでいたことがあって、道東圏というのはすごく関係がありますが、本当に久しぶりに各施設を見てみて、自分が網走に住んでいた頃、見ていた頃がもう 30 年近く経っていますので、自分の記憶の中でリニューアルしていかなきゃいけないな、現状をちゃんと認識しなきゃいけないなということをすごく強く感じた１年間でした。それは私が専門としていた博物館学とか、博物館経営論みたいなものも、伝統的な考え方と今のこのコンテンツ、北方領土の啓発というコンテンツを掛け合わせたときに、やっぱり、学問の領域の中だけでは収まらないような、もっと柔軟ないろんな手法とか考え方を取り入れなきゃいけないなということを痛感した１年間だったかなと思っております。それと、昨日の話なんですが、地下鉄に乗っていたら、女の子が持っていた大きな紙袋に「変われるってムテキ」って書いてあるのを見ました。変われる、自分の価値観とかを変えていけるっていうのは世の中ですごく強いことだというメッセージのようです。その時、今の自分に言われてるのかなと思って、すごく励まされたのが昨日でした。１年間お世話になりました。

○矢ケ崎座長　今日この会議があって、この会議が得をした気がしますね。本間先生お願いします。

○本間構成員　１年間ありがとうございました。ベテランの先生方の中に入ってですね、最初は役に立てるかなというふうに不安になりながらも、いろいろと学ばせていただいた１年間だったなというふうに思っております。私は、北海道は札幌近辺しか行ったことなくて、今回初めて道東に行かせていただいたのですが、やっぱりその札幌近辺だけを知って、北海道を知った気になってはいけないなというのをすごく痛感したなと思いまして、文化的なこともそうですけれどもいろいろな北方領土のことも含めて全く知らないこととかがあったなというところがありました。私は福島県会津の生まれなんですけれども、そことの関わり、会津藩との関わりが深くあったというところを、あまり自分が生きてきた中で、地元の教育の中でも知る機会というのがほとんどなくて、今回ものすごくそこはこういうつながりがあったということを知れて、嬉しいとともに知らなかったということをとても恥じたところもありました。次年度に向けてもう少し自分の中でいろいろと調べていきたいなと思ったところでもあります。

私は、今回デザインという分野で入らせていただいておりますけれども、二つ次年度に向けて考えていきたいなということがありまして、１つ目は、先ほどの皆様のこの実態把握調査の最後の方、10 ページ「施設に対する「自由意見」（定性回答）」自由記載の改善案ということで、ロシア側の主張の展示もということもあったんですけれども、北方領土について、歴史の中でどのように位置づけていったらいいのかというところが、現地で語り部の方の話とか、実際に北方領土の方に住んでいた方のお話を聞くとやっぱりその時はすごく気持ちが動いて返還してほしいというこちら側の目線になってしまうんですけれども、やっぱり歴史とか戦争とかそういう中でどういうふうにこの出来事を位置づけていったらいいのか、どういうふうにメッセージを発信していくべきかということは、少し考えなくてはいけないのかなと思っています。あとはデザインの面としてはですね、やっぱり展示とか、第４回会議の際、広島平和記念資料記念館に勤めておられた小山さんに来ていただいたときも、展示をしっかり作るところは、いろいろな業者の方とか専門の方が入って、その場での点としての展示は、成立すると思うんですけれども、その先、そこの展示とかその周りの文化的なものとか啓発活動をつなげていくには、やはりそこから漏れてくるようなものをどういうふうに大切に扱っていくかというところが、大事だなと思っておりまして、デザインをする人間だけではなくて、その周りの関わる方々がどういうふうにそういうメッセージとかイメージというものを共有して、添加していくかというところがすごく大事だなと思っておりまして、語り部の方が独自の資料を作っていたり、現地にいた方が独自の作っていたものというのはすごく力があると思うんです。でもそれを展示の中でどう位置づけるかとか皆さんがいいなと思って作っていく資料の持っている力が合わさって、時に展示全体としてリズムを少し崩したり、すごくいっぱい資料を貼ってしまって伝わらなくなってしまうというのがものすごく残念だと思うので、そのあたりの展示から漏れ出る部分のような目に見えない何かがうまくいっている施設って、やっぱりそういうところがうまくいっているというのを普段見ていて実感するので、うまくそこは言語化できていない部分でもあるんですけれども、その辺の大切さとか、そういう部分を自分の研究の中でも明らかにできるといいのかなというふうに思いました。

○矢ケ崎座長　ありがとうございます。確かにどーんといろんなものが来るより余白が少しある方が受け取りやすいかもしれないですね。渡邉先生お願いします。

○渡邉構成員　僕は、２回連続で標津町にワークショップに行っているのですが、一昨年参加した学生達がすごく楽しかった、また参加したいって言っていたりとか元島民の福澤さんにまた会いたいっていうふうに言っていたり、また開催するのであれば私も行きたいですと言って手を挙げる学生さんが増えていたりして、関係人口が着実に増えているのを研究室の中でも感じています。標津町がそれだけ魅力的な土地なんですね。あとは、僕は寝ていたので気がつかなかったのですが、学生たちは夜明けを見に連れて行ってもらったらしくて、そういう教員を無視して勝手に交流が始まるぐらいの良い人間関係ができていっているんだなというのを感じます。これがおそらく道外から来る人たちが、この啓発施設とか地元の方々と、築き上げていってほしい関係だなと思います。何が言いたいかというと、また夏に行きたいですって話なんですけども。本当にこう、スモールスタートですが、そうやって、それまで縁のなかった人たちと、標津の方とか北方領土の近くの隣接地域の方々とネットワークができていけばいいなというふうに思っております。ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　ありがとうございます。来訪者だけではなくて関係人口を作っていくっていう要素もすごく大事になってくると思います。有識者の先生方のコメントは終了ということで、オブザーバーの皆様方からいただいてまいりたいと思います。北海道総務部北方領土対策本部から山田課長さん、コメントお願いいたします

○山田課長　北海道庁北方領土対策課長の山田と申します。この間、有識者の皆様の大変熱心な御議論、示唆に富むものが多く大変勉強になりました。来年も引き続きこの会議が開催されると承知しております。その中に内閣府の来年の新しい事業、北方領土館の基本構想・基本計画、これとリンクした形の御議論もされると思うのですが、北方領土館建て替えに向けた具体的な議論までしていただけると大変ありがたいと感じた次第でございます。以上であります。

○矢ケ崎座長　続きまして、北海道北方領土対策根室地域本部北方領土対策室の佐々木室長、オンラインで御参加でしょうか。お願いいたします。

○佐々木室長　北海道庁北方領土対策根室地域本部の佐々木と申します。まず今年度１年を通して有識者会議のメンバー、オブザーバーの方々には様々な角度から北方領土問題について熱心に御議論いただいたことを感謝申し上げたいと思います。この有識者会議に携わっているメンバー全員の共通認識として、ゴールは北方領土問題の解決・早期返還、そのために、その手段として北方領土問題の世論喚起に向けた取組の必要性というところは全員一致しているところかと考えています。したがって我々に求められているのは、いかに効率的かつ効果的に啓発の取組を進めるかということではないかと思っておりまして、そのためにベースとなる考え方がしっかりと構築されて、それに基づいて関係者がそれぞれの立場で役割を果たしていくということが必要ではないかというふうに思っています。

建物として限界を迎えつつある一つの啓発施設、標津町北方領土館の老朽化の問題というのは、しばらくの間、動きがなかったところですけれども、それが今となっては、一つの施設の問題に留まらず、隣接地域が一体となって啓発を考えるという動きに現在なっておりまして、じっくり時間をかけて検討を進められる一方で、早急に対応しなければならないという部分はスピード感を持って対処いただいていることに、内閣府はじめ関係の皆様に改めて感謝を申し上げたいと思っております。

我々としても、我々の役割をしっかりと果たしていきたいと考えております。今後もこの有識者会議では、隣接地域の実情を踏まえながら、それぞれの専門的な知見を生かした御助言などをいただきますようお願いしたいと思っています。以上でございます。

○矢ケ崎座長　続いて、根室市さん、お願いいたします。

○荒井課長　根室市北方領土対策課の荒井と申します。この１年間、本有識者会議において、熱心な御議論いただきまして大変ありがとうございます。また今年度の補正予算で、北方館と羅臼国後展望塔の建物に係る補修について盛り込んでいただいたということと、また来年度の内閣府の予算案で北方領土館につきまして基本構想・基本計画の計画策定のための経費を盛り

込んでいただいたということで、我々隣接地域一同、一定の方向性が見えてきたのかなと思っております。中間報告、取りまとめという段階ではあると承知していますが、来年、根室市内の施設におきましては、関係機関とも連携しながらワーキングチームを立ち上げると承知をしておりますので、その際にまた地元の意見というものをお伝えさせていただければなと思っております。

来年以降、１年間引き続き有識者の先生をはじめ内閣府の方々、関係機関の皆様の御意見をいただきながら、より良い方向に向かっていければいいなと感じております。今年１年ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　続いて別海町さん、お願いいたします。

○友貞主任　別海町総合政策課の友貞と申します。本日は誠にありがとうございました。別海町の別海北方展望塔は、北方領土啓発施設であると同時に、道の駅や観光の玄関口の役割を担っております。先ほども説明のありました実態把握結果報告の資料にもあるとおり、１階のレストランや売店を目的に訪れた方が、２階の展示室や３階の展望室へ自然に足を運び、北方領土を目で見て感じる動線が生まれていることが特徴です。今回の実態把握調査を踏まえて、改めて本町の北方展望塔としての役割を感じることができました。今後、観光と啓発を分けるのではなく、地域資源や日常のにぎわいの中に学びを組み込むことが、これからの持続可能な啓発の在り方ではないかと改めて感じております。今後も地域と一体となり、訪れた方の心に残る発信を本町としても努めてまいりたいと考えております。１年間ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　続いて中標津町さん、お願いいたします。

○谷口主幹　中標津町の谷口です。中標津町は一市四町で唯一啓発施設を持っていない町でありまして、また道の駅もない町ですが、今回構成員の先生達の皆さんの御意見など、とても参考になる御意見を様々な視点から聞かせていただきました。施設がなくてもできる啓発にどのようなものがあるのかを考える良い機会になったなと感じております。啓発施設はないですが、中標津町役場展望室や開陽台の方には展示が少しございますので、その辺りについて、どのようなものがいいのかなど見直ししていけたらなと思っております。１年間どうもありがとうございました。

○矢ケ崎座長　続いて標津町さん、お願いいたします。

○境課長　標津町企画政策課長の境と申します。事務局の方、先生方含め本当に１年間大変お疲れ様でございます。このように参加をさせていただいて、改めて有識者会議を通じて北方領土問題の認識を深められるということと、我々隣接地域のそれぞれ地元の役割というか、そういったところで発信する必要性を改めて感じられたものだったというふうに思っています。それから調査結果の内容を見て、地元にあるこの北方領土館がどのように見られているのだろうということも改めて認識もできました。今後議論が深まっていく、我が町にある北方領土館の建て替えに関して、地元としてもこのような形にしていってほしいというような参考意見を出すために大変役立ったなというふうに考えております。本当に１年間ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　続いて羅臼町さん、お願いいたします。

○遠嶋係長　羅臼町企画財政課の遠嶋と申します。アンケート、中間取りまとめたたき台など、皆様大変お疲れ様でした。展示について、漠然とどうしたらよいのかということを日々悩んでいたところですが、この１年の有識者会議を聞かせていただいて参考になったなと思っております。御存知のとおり、羅臼国後展望塔は高台にありまして、百聞は一見にしかずというか、一目瞭然というか、そういうところに頼っており、展示のことについては後回しにしていた部分もありますけれども、そこも新年度から取り組んでいきたいなと思いました。

直近、地域おこし協力隊のＯＢが、イギリス人３人を展望塔に連れて行ったところ、多言語対応されていなくて非常に困ったという意見もいただいたばかりです。アンケート結果や中間取りまとめを参考にしながら、今できることを北対協さんと一緒に相談しながら、取り組んでいきたいと改めて思いました。以上です。ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　ありがとうございました。続いて外務省欧州局ロシア課さん、お願いいたします。

○有馬主査　外務省欧州局ロシア課の有馬でございます。１年間ありがとうございました。私自身、北方領土隣接地域は、何度か訪問させていただいて自身の目でも見ていたのですが、今回一連の会議に参加して、有識者の先生方の活発な議論であったり、各回の発表者の皆さんのお話であったり、事務局の皆さんからの御報告を伺って、私自身これまで知見のなかった、啓発や地域振興というものについて理解を深めることができたと思っております。改めてお礼申し上げます。

御案内のとおり、ウクライナ侵略以降、日露関係は非常に厳しい状況ではございますが、日露が隣国であるという事実はこれからも続いてまいりますので、北方領土問題を含めて少しでも前向きなニュースをお伝えできるように我々としては取り組んでまいりたいと考えております。１年間ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　続きまして、文部科学省初等中等教育局教育課程課さん、コメントをお願いいたします。

○遠藤専門官　文部科学省教育課程課の遠藤です。ありがとうございました。文部科学省としては北方領土も含めて、領土に関する教育、学校教育の充実を進めてきたところではありますが、今回、有識者会議等を通じ、様々な現場の実態や、あるいは周知啓発等の取組等が様々あるということを、私も非常に勉強させていただいたなというところでございます。引き続き、内閣府をはじめとして関係省庁、関係の機関も含めて皆様とも連携を図っていきながら取組を進めていければというふうに思っております。今回ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

○矢ケ崎座長　続いて国土交通省北海道局さん、お願いします。

○藤井開発専門官　国土交通省北海道局の藤井と申します。１年間この有識者会議に参加させていただきまして非常に有意義な意見を聞くことができました。大変ありがとうございました。私自身、隣接地域の安定振興に関わっておりまして、昨年の秋、初めて標津町北方領土館を含め、３カ所の施設を見学する機会がございました。どの施設を見てみましても、非常に学びが多く、まさに終戦当時でしたり、引き揚げ時の大変さが偲ばれるような展示でございましたし、また窓の外を見ますと、目の前に広がる北方領土、その間近さを非常に感じて、ここでしか得られない体験ができる、そういった施設として重要なものであると痛感いたしました。一方、施設の老朽化具合も確かに目につきましたし、展示についても、視覚的な見やすさや、あるいは見に来た人の知識のレベル、興味に応じた説明などの観点から、もう一工夫あっても良いとも感じました。そういう意味では、この有識者会議の意義や目的として、施設の老朽化対策や、展示のリニューアルが掲げられたことは現場の課題に適っていると思いますし、今日まで議論のありました中間取りまとめ案の内容や方向に沿って、来年度も改めて充実した取りまとめを期待しているところでございます。今後も国土交通省といたしましても、内閣府をはじめ、関係各省や皆様方と連携を図りながら、可能な範囲で協力していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。１年間ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　続いて独立行政法人北方領土問題対策協会さん、お願いいたします。

○梶原専門官　北対協の梶原でございます。まずこの１年間どうもありがとうございました。現場への視察や、様々なヒアリングを通じて、新たな発見が数多くあった、非常に有意義な会でありましたこと、大変ありがたく思っております。元島民の方は平均年齢 90 歳を超えるというところ、また、２月７日の北方領土の日や、今月は北方領土返還運動全国強調月間ということもあり、様々な声を聞く機会がいつもより多かった中、島に帰りたいという声が多く聞こえ、やはり、この問題に意識を持ち続けるということが、今、厳しい状況の中で本当に大切だという話も聞いたところであります。

やはり、一人でも多くの方に、道東に足を運んで自らの目で北方領土を見てもらう、そのための施設なのですが、いかんせん老朽化がある中、一つの節目が来ているのかなというふうに思うところであります。次年度以降も引き続き中間取りまとめを深掘りしていければと思っています。私どもの施設は３施設ありますけども、今回の様々なアドバイスを可能な範囲で取り入れて、矢ケ崎座長のおっしゃる「ついでの魅力」が、明確な目的のある魅力になっていくように、尽力していければと思っております。本当にこの１年間ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　ありがとうございました。続きまして公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟さん、よろしくお願いいたします。

○前川参事　千島連盟の前川でございます。まず、本有識者会議、今日で５回目ということで非常に丁寧にかつ熱心に御議論いただいたことに改めて感謝申し上げます。どうもありがとうございます。また併せて、今年度の補正予算、さらに来年度の予算案として計上されているということでこちらについても感謝を申し上げたいと思います。

私の方からは一点、ただいまの北対協の梶原さんからもお話がありましたとおり、昨年 12 月末現在、弊連盟で調べております元島民の平均年齢が 90 歳となりました。初めて 90 歳代になったということで非常に危機感を持っております。元島民の生の声を聞ける時間というのが、非常に短くなってきております。ただ、語り部につきましては、後継者の語り部も続々と誕生しております。そういった方々の活用につきましても、佐々木先生の方から、ナラティブのお話がありましたけれども、今後、施設の整備とともに、ソフト面での活用ということでも検討を進めていただければ大変ありがたいかなと思います。私からは以上でございます。どうもありがとうございました。

○矢ケ崎座長　それでは続きまして、公益社団法人北方領土復帰期成同盟さん、よろしくお願いいたします。

○河内事務局長　北方同盟の河内と申します。まず、私どもが所有しております北方領土館につきまして、今回、基本構想・基本計画の検討策定のための予算要求が行われたこと、感謝を申し上げたいと思います。引き続き、施設の役割を踏まえた整備の方向性が示されますように御議論、取組をお願いしたいと思います。

もう一点は、中間取りまとめ案について、施設の老朽化対策や展示の在り方等はもちろんでございますが、やはり 10 ページ「（３）その他の取組等」で、今回、観光面の問題や地域の連携など、新たな視点、知見、切り口を御提示いただいたのかなと思っており、私ども普段そこの意識が足りなかったのかもしれませんが、施設の周知、全国の方にいかにお越しいただくかということも含めて、こうした観点の議論の深掘りをまた来年御期待を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

○矢ケ崎座長　どうもありがとうございました。皆様からコメントいただきました。ありがとうございます。私も僭越ながら一言申し上げたいと思います。素晴らしい検討の機会をいただきまして、そして有識者会議の座長を拝命いたしました。最初は私で大丈夫かなと思って、羅臼の保育園を卒園したというだけで座長をやっていて良いのかなと思っていましたが、素晴らしい先生方をメンバーにしていただいて、非常にいいディスカッションや御指摘をいただき、そして関係者の皆様方からも本当に素晴らしい御発言等をいただきながら何とかここまで来ることができたというふうに思っております。

先ほど御指摘がありましたけれども、隣国を変えるわけにはいかない。過去の歴史を変えるわけにはいかない。その前提条件の中で私達は何を考えてどういう未来を切り拓いていくのか、そういう前向きな姿勢を持つときにどういう情報が必要なのか深く考えさせられたところです。皆さん方が、いろいろ学びがあった、深く考えさせられましたという思いを踏まえて、中間取りまとめで一回まとまっていますが、この先更にそこを踏まえながら深掘りをしていく必要があります。まだ終わってないと身が引き締まる思いをいたしました。

私自身は観光が専門ですが、観光というものはツールです。観光というツールの力を使って何かを成し遂げていただきたい。この場もそういう場であると思っています。しかしながら、楓先生におっしゃっていただきましたが、北海道の観光というのは、実は観光の初期段階にはよくある話ですが、道央圏一極集中、これが非常に著しいです。万遍なく人が訪れる段階に早く進めていかなければいけないということで、観光サイドは努力しています。こうした状況も上手に活用していかなければいけないなという思いも強くしました。また引き続きよろしくお願いしたいと存じます。拙い座長を支えていただきまして、皆様方ありがとうございました。

では最後に内閣府北方対策本部三浦審議官から御挨拶を頂戴いたします。

○三浦審議官　ありがとうございます。三浦でございます。まずは検討に御参画いただきました皆様に深く感謝申し上げたいと存じます。誠にありがとうございました。これも矢ケ崎座長をはじめとする皆様の専門的な御知見に基づく精力的な議論があってであり、中間取りまとめについても、今日も御指導をいただきましたので、もう一段修正が必要となっておりますが、このような形に結実できたと考えております。

実は私の父がシベリア抑留者で、舞鶴に引き揚げてきました。シベリア抑留者の方々は、体験がつらすぎて語らないということを言われておりますが、本当に何も語りませんでした。それが今、舞鶴引揚記念館がデートスポットになっているということで、父も他界しておりますが、多分、自分達のことを知ってもらえるということで大喜びされているのではないかなと思っております。既成概念にとらわれては駄目だなという思いを強くいたしました。

また、佐々木先生からもナラティブというお話がありました。没入体験的なものを入れていくと、意識の高い方々が最初に来られて、口コミで広げていただけて、それを起点に広まっていくのかなと、既成概念にとらわれない考え方、逆手にとったような考え方もできるのかなということを思っております。これも皆様の御指導のおかげでございます。私も精一杯頑張っていきたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○矢ケ崎座長　大変ありがとうございました。それでは本日の議事は終了でございます。最後に事務局から御連絡をお願いいたします。

○事務局　事務局でございます。皆様、本日は長時間にわたりまして、御議論、御意見いただきまして誠にありがとうございました。これまで１年間にわたって本有識者会議に御参加いただきました構成員の先生方並びにオブザーバーの皆様に事務局からも心より感謝申し上げます。本日の議事録につきましては、事務局で作成の上、御確認をいただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○矢ケ崎座長　以上で第５回有識者会議を終了いたします。皆様本当にありがとうございました。